

第6回 孤独・孤立対策のあり方に関する有識者会議

2026・3・5

地域における孤独・孤立対策に関するNPO等の取組モデル調査

孤立した学生を支えるキャンパスカフェの運営
—学生による学生のためのピアサポートの試み—

神戸女子大学

伊藤美奈子

神戸女子大学の実情

◇1945年に設立された女子大学。本部は、須磨キャンパスにあるが、看護学部と心理学部は、複数の大学が集まるポートアイランドに位置している。

◇担任制をとり、細やかな学生対応を行ってきたという歴史がある。また、保健室、学生相談室、学生支援センターなど、学生が気軽に立ち寄り相談できる窓口を整え、どこかで学生の困りごとをキャッチできるような体制づくりに努めている。

◇他方、大学では地元を離れて通学する学生も多く、学部や学科の規模が大きくなることで孤独・孤立感を抱き、誰にも相談できずにドロップアウトしていく学生の存在が課題となっている。コミュニケーションに苦手意識があったり、個別の配慮を必要としたりする学生への対応が求められる機会も年々増加している。

本取組に至ったきっかけ

◇孤独・孤立を抱え、休学していく学生が一定数いる

人に相談することのハードルが高い



ひきこもったり休学・退学したり

大学に居場所を作り、学生による学生のためのサポートがあれば…



心理学科の学生有志による「学内キャンパスカフェ」の立案

(実習先の高校で行っている校内カフェをヒントに)

本事業の募集があることを知り、申請し採択！

取り組み内容



採択から終了まで=6月末～1月（経費支出手続きの関係で活動は1月まで）

◇7月：試行実施

◇10～1月：週に1回、曜日を決めてキャンパスカフェ開催

ものづくり（ワーク）、おしゃべりやゲーム、学習サポート

◇11～1月：特別企画も開催

ピラティス3回、クリスマスリース作り、苔玉作り、

セラピードッグとのふれあい、子ども食堂との連携 etc.



取り組みにおける配慮事項

学生主体の活動ではあるが、以下のような後方支援は必要

◇教員や専門職によるバックアップ

◇多様な学内の支援窓口ともつながる

(保健室・学生支援センター・広報課等)

◇学外専門機関との連携（実際にはつなぐケースはなかった）

大学休学中の学生に対する支援機関やクリニック等

取り組みによる成果

◇最初は参加人数も数人程度

⇒保健室や学生課の協力により徐々に増加

⇒魅力あるイベントにより新規参加者も増加

◇支えられる側も支える側も

参加者：「こんな場所が1年生の時に欲しかった」

学生有志：人と関わる経験（心理職には必要不可欠な力）

課題や難しさ

持続可能な取り組みとするために

◇助成期間終了後も、学科として継続していく方針が決定

(学内の理解・協力と財政的支援も必要)

◇支える側の学生の資質向上が必要

⇒そのためにも、実践を支える指導者が不可欠